

KTK
NO.122

あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座

01070-7-32145
あらぐさ後援会

編集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



『夏はやっぱりプール！』

今年の夏も連日猛暑が続き、「みんなで何か夏らしいことがしたいね～」と、Cグループでは初めて小さなプールを庭に出して、水浴びを楽しみました。

プールの水にドキドキされた表情でゆっくりと足をつけてみたり、濡れるのが苦手でプールから離れて見ている人も水鉄砲に挑戦してみたり、水が大好きな利用者さんはシャワーで何度も水をかぶって、全身ずぶ濡れになるまで楽しんでいました。

「こんなに水が好きなんや～」「水鉄砲楽しそうだったね」と皆さんの新たな一面や発見がありました。

暑い日がまだまだ続くので、また楽しいイベントを企画していきたいと思います。
(岩佐)

「みんなおいでよ～
あらぐさひろば」
開催のお知らせ



やさしい街づくりを応援！ みんなで楽しく交流しましょう

日時：11/8（土）13:00～15:00

会場：障害福祉センターあらぐさ

あらぐさ製品販売・能登支援珈琲販売・なんでも市・ミニバザー・
遊びコーナー・ステージ発表・ジュース販売・福引き抽選会

主催：あらぐさ後援会 後援：長岡京市（雨天の場合は中止です）



ディセンターあらぐさAグループの石井ましまさんは、21歳になります。ましまさんのお母さんは、これまでたくさんの地域の人たちに、ましまさんを知ってもらおうと行動されてきました。あらぐさでは、お母さんが大切にしてこられた思いと子育てから学ぼうと、講演をしていただきました。その時のお話に少し加筆していただき、ここに掲載します。

今日は「私の子育て、人と人とのつながり」ということで、ましま（まっしーと呼んでいます。）を育てる中で大切にしてきたことをお話ししたいと思います。まずは、家族を紹介します。お父さんはサラリーマンです。私はもとは小学校の教員をしていましたが退職しました。今は週12時間、西総合支援学校の非常勤をしています。長女は大阪でダンサー、弟たちは大学生と高校生で野球をやっています。家はにぎやかな状況です。



地域の同級生たちと二十歳の写真

ましまの生き立ち

まっしーは2004年10月11日に生まれました。朝、出血が始まり個人の産婦人科にかけつけましたが、すぐ第一日赤に救急搬送。その時はそんなに大変になっているとは気づいていませんでした。日赤に着いてから出産まで6時間。「挿管！」という声が聞こえました。翌日NICUで対面。酸素が全然脳にいってなくて、ほとんどの脳が壊死していると言われました。保育器の隣の子はとても小さくても元気ですが、まっしーはたくさんの管につながれ動かない。「助けて下さってありがとうございます」と言っているのですが、その姿を後ろから見ている自分が映像で見えているのです。どうしていいかわからぬ、現状を受け止められていなかったのですね。

就学前



第一日赤には、ましまだけ47日間入院しました。退院したらすぐに聖ヨゼフ医療福祉センターに行きなさいと言われました。ヨゼフでは母子入院をして、1か月間訓練の練習をしました。1日4回、ボイタ法という訓練をするのですが、かなりのプレッシャーで「あ、また、しなあかん。また、しなあかん。」となっていました。やっていないと先生にはすぐわかるので、そんな時は正直にやれなかっただと言いました。

保育所にいれたかったのですが、向日市は育休では入れなかっただので、教員を退職し内職して保育所に入れま

した。目の療育のため、あいあい教室にも通いました。サークルぼちぼちを、障がいのある子のお母さんたちと力を合わせてスタートさせました。

私が、障がいを受け入れられていたかというと、まだまだ受け入れられていませんでした。産後47日間の入院中は、毎日泣いていました。見通しが見えない。どう育っていくかもわからない。どう育てていいかもわからない。現実を受け止められていなかった。とりあえず、先生の言うレールに乗って、一緒に生きているという感じでした。

出会い

ヨゼフの母子入院のときに、一人のお母さんと出会いました。ケアがもっと必要で、夜中も吸引するようなお子さんのお母さんでした。その方はすごくきれいにしていて、すごく楽しそうにお子さんの話をしたり、旅行に行つた話をされたり。そんな話を聞いているうちに、自分は何を悩んでいるんやろ！！普通に生活していたらいいやん！！と、ふと扉があき、目の前に光が見えたんです。そこから私も変わっていました。

受け入れることが出来たら、じゃ次は、と思った時に、「こんな子に育てたい」ということがわからなかった。しゃべれないし、一人では食べられないし、とにかく人のお世話にならなければ生きていけない、どうしたらいいんやろと思っていた頃、「こらぼねっと京都」（児童発達支援等の事業所）の話をよく聞いていたので、まっしーを連れて見学へ行きました。そこで、伊藤先生と話している間、まっしーは、ずーと大声で泣いていたんです。すると先生が「うるさい！」と言われ、まっしーは、ピタッと泣き止んだんですよ。それには爆笑してしまいました。先生は「ちゃんとわかっているやろ。今は静かにせなあかん時やで」とおっしゃいました。まっしーはその後、静かにしていました。先生は「この子は人の手を借りな生きていけへんから、介助したくなるような子に育てなあかんで。」と言われたんです。この言葉がストンと胸に入りました。

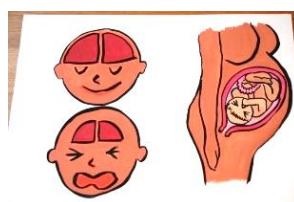
本当のましまを知ってもらおう

そのころお姉ちゃんは保育所に通っていたのですが、まっしーと一緒にいると、じろじろ見られるわけです。そんな時、まっしーの顔にお姉ちゃんが全身で覆いかぶさったことがありました。あ、これではいかんなと思い、やはり地域で普通に生活するためには、まっしーを知って

もらわないとあかん、人目を気にしてたらあかんなと思ったのです。

まっしーの本当の姿を知ってもらおうと考えました。具体的には、保育所に入る。向日が丘支援学校に入学したら地域校との交流をする。自治会や子ども会にも積極的に参加して知ってもらおうと思いました。

3歳で保育所に入った時、子どもたちからは「なんでこんなに食べてるの、なんでこんなに乗ってはるの」「なんで」「なんで」攻撃でした。そこで、紙芝居をつくってみんなに見せました。絵はお父さん、構成は私。「おなかにいるときに息が出来なくなって、脳が小さくなつたのよ」「長い間病院に入っていたのよ」「訓練ということをしているの」「みんなと遊びたいのよ」などと話すと、子どもたちは家に帰って家族に話してくれていたそうです。そうやってつながっていきました。



紙しばい



校区の向陽小学校には、入学の1年前から入学式に参加させてほしい、みんなに紹介してほしいとお願いをしてきました。向陽小では式の日、保護者席にまっしーの席をつくり、校長先生から「地域には石井ましまさんという人がいます。向日が丘支援学校に通います。」と紹介してくれました。支援学校に通いながら、1年間に5回、向陽小との交流が始まり、6年間続きました。向陽小での最後の交流日、サプライズで6年生全員で集合写真を撮ってくれました。

ご近所づきあいも大事にしました。運動会や餅つき大会やクリスマス会など、今も参加しています。

子育ての目標・大切にしていること

子育ての目標は、「いつでもどこでも誰とでも、寝て食べて排泄が出来る」ということ。2つめは「介助したくなるような子に育てる」。

じゃあ、どうしたらいいのかと思った時、人を好きになることが大事かなと思い、積極的にサービスを使う、サービスを使いながらいろんな人と関わりを持つ機会をつくっていこうと思いました。親だけでは限界があります。支援学校では、通年で寄宿舎に2回入りました。初めは医療的ケアの申請をしていたので「入れない」と

言われました。主治医と相談し医療的ケアを外しても大丈夫と言うことになり、入舎しました。ちょうど、私が腸閉塞などいろいろ病気をした時でした。異学年の人たちと生活をしたり、親と離れて生活をするのは、これから自立に向けてのいい機会でした。

とにかく、たくさんのサービスを使っています。入浴は、週5回、夕方3か所の介護事業所のヘルパーさんにお願いしています。月2回、水曜日の夕方は訪問リハ。移動支援で外出し、短期入所（花ノ木、ヨゼフ、いろどり）や日中一時支援（若竹苑）も使っています。

ただ、毎日入浴は助かるのですが、実は夕方までに掃除して家を綺麗にしておかなければ、とすごいプレッシャーもありました。でも祖父の家のルンバを借りて掃除するようにしたら、少し楽になりました。（笑）

信頼と対話

支援学校の卒業前は、「仕事をさせたい」と思っていました。仕事目線で進路をいくつも見ていましたが、いろいろ考えて、やはり信頼できる職員さんがいるところやなと思いました。体験であらぐさに来た時に、まっしーを見てくれた職員たちの気遣いと、それを行動に起こしてくれた場面をみて安心感が持てたので、あらぐさに決めました。

職員さんとは話しをすることを大事にしたいなと思います。親はよく要望をいうのですが、一緒に考えて、楽しんだり喜んだりする場面があればいいなと思っています。

たくさんの人との関わりを

さんさんの言葉で「生きてるだけで、まるもうけ」とありますが、この言葉は心の支えになります。まっしーには、「生きているって楽しい！！」と思える人生にしてほしいと思っています。1人では生きていけない分、たくさんの人と関わることで楽しいと思える瞬間がいっぱいあるはずです。（母も一度きりの人生、楽しめます。）

これから、もっとたくさんの人と関わって、介助したくなる女性に磨きをかけていきたいと思いますので、皆さん、よろしくお願ひします。



お出かけ

各グループからの報告



氷絵の具に挑戦！（Bグループ）

絵の具で作った色水を凍らせた氷絵の具で、うちわを作りました。みんな氷の冷たい感触に興味津々で手を伸ばしていました。冷たいのなんてへっちゃら！と氷をわしづかみで紙に塗り付けたり、氷を掴んでは紙を入れたタライにポイっと投げ入れたり、たくさん氷を入れたタライをフリフリ振って氷を動かしたり、とそれぞれの楽しみ方で素敵なおうちわが出来ました。（坂本）



野菜の収穫！（ワーク）

ワークセンターでは、あらぐさ敷地内を開墾し畑作業を始めました。まずは、プチトマト、ピーマン、ナス等の夏野菜を植えました。「大きくなっているかな～」と野菜の成長に興味津々です。初めてとれた野菜は皆さんと味見をしました。「美味しい！」と感動しているメンバーさんや、「他の職員さんにも食べてほしいな！」とおそらく自分だけに行くメンバーさんもいました。今後も豊作を願って頑張っていきたいと思います。（三浦）



おやつ販売活動（Aグループ）

Aグループでは、食べることが大好きな利用者さんからの発信で、おやつ販売の企画が始まりました。今回は、かき氷やさんを企画。チラシ作り・メロンシロップ作り・看板づくり・買い物・当日の店準備など行ってくれました。開店当日は、職員や他のグループの利用者さんもお店をのぞかれ参加してくれました。先輩の企画を聞いた別の利用者さんは、「あずきバーを作りたい！」と企画。緊張しながらも宣伝活動から販売までしてくれました。終わった後、買ってくれたみんなから「おいしかったよ！」と言われ笑顔がこぼれたひとときでした。（大江）

七夕をしました（ケアホームいりどり）

7月の初めからわかくさ棟に笹と短冊を用意して、七夕飾り付けの準備をしました。職員と一緒に短冊に想いを込めて、願い事を書きました。それをひとり一人笹にくくりつけて準備をしました。

そして迎えた7月7日当日。たくさんの飾りと願い事で彩られた笹を見ながら、七夕ゼリーやプリン等のデザートを食べて「美味しい！」と満面の笑みがみられました。きっと天の川に願いが届いている事でしょう。（田中皓大）



デイ2夏祭り！（デイ2）

久しぶりにデイ2で夏祭りを開催しました。焼きそば、かき氷、ジュースなどの準備でメンバーは大忙し！出来上がると、皆でわいわい美味しく堪能しました。

魚釣りゲームでは、様々なユニークな手作りの魚を釣り大盛り上がり。最後は皆で盆踊りです。マツケンサンバを元気いっぱい踊りました。沢山の笑顔と歓声あふれるひとときを仲間たちと一緒に過ごせて、みんなとても充実した夏の思い出になりました。（平野）



2025年度 会員加入・更新・支援募金 ありがとうございました。

(令和7年4月1日～8月15日 敬称略・順不同)

赤城博子 秋山喜美江 浅野晃生 芦田幸子 芦田昌夫 東俊明 綱谷億子 新井嘉彦 荒木満 荒木まち子
粟野亜希子 粟野賢 生路智子 生嶌澄夫 池島三千江 池田芳子 石井俊吾 碇将之 石堂宏宜 石野洋子
石原洋子 石村和子 伊丹路恵 伊地知洋晃 伊地知有華 一箭浩志 伊藤和雄 伊藤勝久 伊藤卓次 伊藤弘紀
稻葉薰 井世上津子 射場隆 今井三郎 今井正 今井千代子 今西正恭 今西さよ子 医療法人社団くぼた医院
岩崎英雄 岩崎泰子 上田晃圓 大江潤 大城まゆみ 大谷ユミ 大槻拓也 大槻典子 大槻裕治 大坪博美
大橋雅人 大林雅子 岡本敦子 小川直 小川貴士 奥山千壽 小谷勝利 小野留美子 小原明大 垣内望美
片山雅代 加地祥志 勝山宏一 桂誠司 門野陽子 金子美智子 亀川義昭 川口淳子 河原克美 川辺孝子
神田千秋 菊井誠 北村弦 木村篤哉 木村栄美子 木村トミ子 久保節子 鞍貫聰史 倉橋克之 小寺久美子
後藤真由美 小林美江 小松仁美 近藤健二 斎藤泰樹 坂下三良 坂下佳子 坂本靖子 株式会社坂本建設
桜田吉昭 佐々木久子 佐藤洋 佐名木良実 澤月子 塩尻光明 志賀妙子 四方政則 篠原茂 島津絢子
シャーロン美容室 庄田馨 宗教法人天照教 白石直子 杉谷伸夫 鈴木純子 鈴木千賀子 角誠一 角撮子
関節子 専修院福本哲了 宋彦一 園信孝 田上玲子 高橋久美子 高橋謙二 高橋祐子 田口芽生 竹下久美子
竹下誠 田坂靖子 立山純治 建山昌子 田中栄治 田中皓大 田中大地 田中正恭 田中礼子 谷口奈緒子
谷口弘子 田沼立也 塚上公治 築出邦子 株式会社辻工務店代表取締役辻正志 津田拓也 出口志鶴子
寺岡敬博 東宮健史 東宮靖武 富永洋子 内藤時子 内藤秀春 内藤敬子 内藤基雄 中川千津子 中川美智子
永崎みさと 永崎靖彦 中路克介 中西いく子 司法書士中西正人 中野円 中野史子 中野司 中村雄策
中山恵美子 中山千恵子 西幹男 西井美千代 西田浩子 西村直 野畠光代 野間知津子 萩原暢子 橋爪早苗
橋本さつき 長谷川朋子 長谷川長昭 畠中清子 畠中勇治 八田萬喜雄 林英夫 原田文孝 春田石油有限会社
平井多津子 平方スミ子 平野路予 平野和彦 廣瀬彩子 広瀬美砂 福留知子 福村真理子 福山八千代
藤井恵子 藤本秀延 別府哲 細川敏 本田章子 前田幸子 前田真之介 前田良子 増田弘子 増田尚
増田康夫 増田靖子 松井幸子 松浦佳織 松永里子 丸岡正子 三浦朱葉 三木孝子 三橋眞子 三宅州人
宮崎俊一 宮崎均 宮崎節代 三柳美里 村上久代 村田清子 村山容祥 森清 森上郷 森下彰子 森下純平
森本達也 守屋伸江 八木勝光 八木幸一 安井冽 安井芳幸 (有)ヤスイカメラ 安田耕治 安田隆 安武梢
安武真理 安松美佐子 山口計子 山口隆史 山口武彦 山下紀子 山中章二 山根信子 山本朝栄 山本利江
山本眞弓 横川安子 横山和子 吉村龍二 米村久美 米本久子 辻岡佳子 坪田正雄 清水大輔 山崎諭
匿名医望26名

後援会の会費は、下記の活動経費として大切に使わせて頂きます。

① あらぐさ通信の発行 ②「あらぐさひろば」や後援会イベント ③あらぐさ福祉会への支援

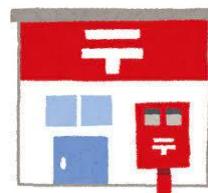
後援会の加入更新・新規加入のほど、よろしくお願いします。

<後援会費> 1口 1000円 (個人) 2000円 (団体)

<あらぐさ支援募金> 1口 1000円

振込先 郵便局口座・番号 01070-7-32145

名義 あらぐさ後援会



「能登被災地支援のつどい」をします。ご支援よろしくお願ひいたします

日 時 11月15日（土）～11月21日（金）10時～16時

場 所 アトリエ畔（光明寺駐車場わき）

内 容 バザー・ミニカフェ・あらぐさ自主製品展示販売 等

○カンパは、能登支援のため「きょうされん石川支部」に届けます。

★バザー用品のご提供、ミニカフェのお手伝い等、

ご協力いただける方、ご連絡下さい。

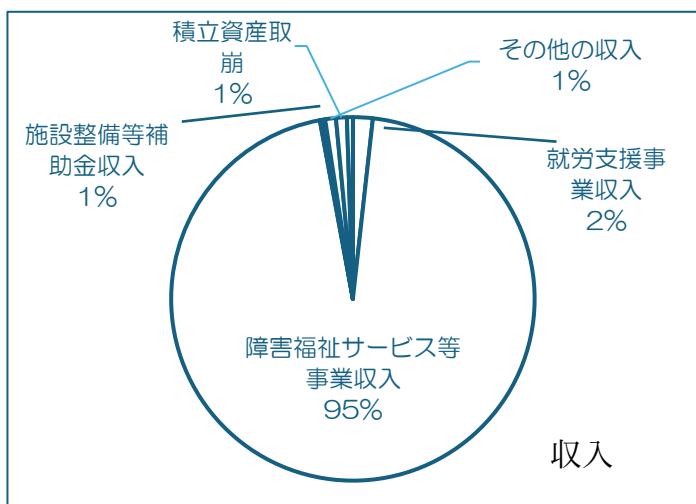
連絡先：真殿 080-6182-5435 主催：あらぐさ後援会



法人報告

令和6年度 社会福祉法人あらぐさ福社会財務状況

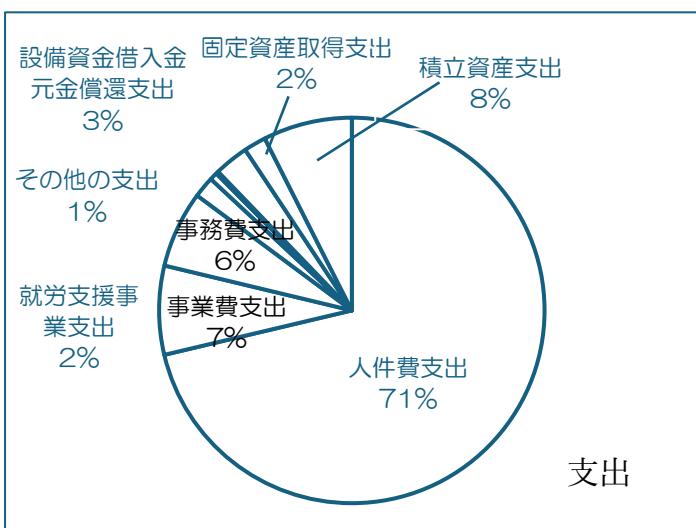
(令和6年度決算より)



収入

障害福祉サービス事業収入（約4億7千万円）

…障害福祉サービスに対する国、地方公共団体からの介護給付費



支出

人件費支出

…常勤職員55人 非常勤職員73人

事業費…主に利用者の活動に関わる支出

事務費…運営事務に要する支出

借入金元金償還支出

…建物・土地の借入金返済

(令和6年度の特徴)

収入の部では、報酬改定や共同生活援助の利用が高まっていることなどから3%増収となりました。

支出の部では、人件費が総支出の71%と大部分を占め、昨年度比で5%増加しています。事業費も、水光熱費や給食費など物価高の影響を受け、増額。設備資金借入金元金償還支出として、総支出の3%を借入金返済にあてています。

固定資産取得支出としては、積立資産を取崩し、エアコンの買い換え、門扉の交換などをしました。老朽化による固定資産の買い換えや修理などが増えてきています。

令和6年度あらぐさ福祉会事業報告・決算報告は、あらぐさ福祉会ホームページに公開しています。



<http://www.aragusa-fukushi.jp>

理事会・評議員会報告
六月、任期満了に伴い、新たに理事・監事・評議員が、次のように選任(新任・再任)されました

理事(任期2年間)	監事(任期2年間)
小川貴士	上村義美
小野洋史	桐山俊宏
佐藤卓利	荻野和雄
古川拓	清水陽一
三木裕和	竹下誠
永崎靖彦	野村秀明(新任)
角攝子(理事長)	梅津久子(新任)
評議員(任期4年間)	丸岡正子
森本恒治	萩原暢子
*(新任)以外は再任です。	(五十音順・敬称略)。

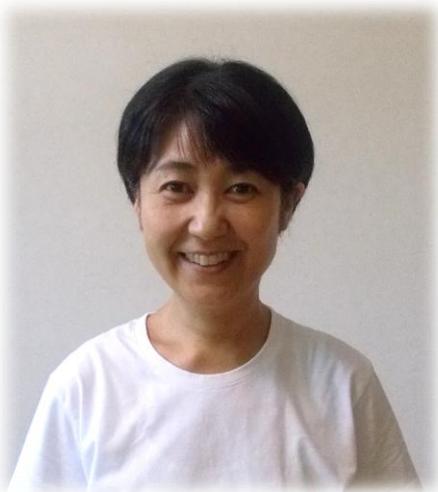
理事会・評議員会報告

あらぐさと私

障害福祉センターあらぐさ 職員

後藤真由美さん

(ごとう まゆみ)



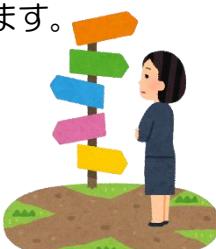
ディセンター2に所属しています、後藤真由美です。あらぐさ福祉会でお世話になり14年目になりました。あらぐさで働くきっかけは、前職の学童保育で障がいのある3名の子供達との出会いでした。異年齢集団の中で、障がいの有無に関係なく遊びや活動を通して色々な経験をし、たくましく成長していく姿を間近で感じていました。そんな時、家族さんから「学校を卒業して施設に入ることは出来るのか、仕事が出来るのか、今から不安です」と話された事がありました。確かに環境の変化や、この先誰と関わるかどんな人と行動を共に過ごすかで、これから的人生が変わるんだろうな~とご家族さんの不安に思う気持ちが痛いほど伝わってきたのです。こうして私なりに何か少しでも手助けできないかと施設について調べるうちにあらぐさのホームページに目がとまり「そうや、私がどんな場所か体験してみたい」と思いたら幸いにも働かせて頂くことになったわけです。

こうして始まった私の施設での仕事、最初の所属はワークセンターで、利用者さんはクッキーとさをり織りをされています。



ホームページ

<http://www.aragusa-fukushi.jp/>



1992年6月5日 第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2025年9月30日発行

KTK増刊通巻第5635号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会

〒604-8804 京都市中京区壬生坊城町48-6 京都社会福祉会館2階

京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円（購読料は会費に含まれています）

私は、さをりの知識が全くなく、どこからおぼえていけばいいのか不安で一杯でしたが、利用者さんの方が整経や糸張りなど丁寧に教えてくれました。ワークの利用者さんの仕事に対して真剣に取り組み、経験を重ね自信と誇りを持っている姿は、とても魅力的でした。

そこからも試行錯誤の日々、現在は、ディセンター2に所属しています。ワークセンターとは雰囲気が違い、ゆっくりしたペースで活動を進めています。それぞれ個人の持っている力も大切にしながら、集団の中で仲間と刺激し合い、「〇〇してみたい」「〇〇はどうかな」「お客様喜んでくれるかな」と積極的に私が考えつかないアイデアを出してくれます。ハプニングが起こった時でも落ち込んだりせず、笑いに変えて人の心を和ませてくれるパワーを持っています。

いまだに支援のことで悩むこともたくさんありますが、利用者さんの方から仕事を楽しむこと、発想を転換すること、どんな事にも立ち向かう事を教えてもらっています。利用者さん・ご家族・職員、あらぐさに関わる方々の出会いにも支えて頂き、長く続けてこれたのだと思います。これからも安心できる場所で、日々の生活を大切にし支援をさせて頂けたらと思います。

KTK

あらぐさ通信